

### ダビデ、メピボセテ、神の慈しみ

聖書：サムエル下 9:1-13. ローマ 2:4. エペソ 2:7. 4:32.

テトス 3:4-5. コロサイ 3:12

- I. サムエル記下第 9 章 1 節から 13 節は、ダビデが、ヨナタンの子メピボセテに慈しみを示したことの記録です：
- A. ダビデはヨナタンのために、サウルの家の残っている子孫に慈しみを示すことが義務であると感じていました。彼はサウルの家の一人のしもべに求めてこう言いました、「サウルの家の者で、まだだれかいるか？ わたしはその者に神の慈しみを示したい」——サムエル下 9:3 前半。
  - B. しもべがダビデに告げたのは、ヨナタンの子メピボセテがまだいて、彼は両足が不自由であったということです——サムエル下 9:3 後半。
  - C. ダビデはメピボセテの父ヨナタンのために、メピボセテに慈しみを示すとメピボセテに告げ、そしてメピボセテの父祖の地をすべて彼に返し、彼がいつも王の食卓で食事をするようになると約束しました——サムエル下 9:7, 13。
  - D. ダビデ王はメピボセテの命を保護し、彼のすべての<sup>しごう</sup>嗣業を彼に返し、ダビデと同じ宴席に彼を招きました——サムエル下 9:7, 9。
  - E. ダビデは、サウルと彼の全家に属する物をすべて、メピボセテに与えました。メピボセテはいつも王の食卓で食事をしました。「彼は両足とも不自由」でした——サムエル下 9:9, 13。
- II. メピボセテは、恵みを受ける何の立場も持っていませんでしたが、それを受けました。わたしたちと神との間にも同じ事が言えます：
- A. メピボセテはダビデの前で全く地位がありませんでした——サムエル下 9:1-6：
    - 1. メピボセテは慈しみを受けたのは、自分自身のゆえにではなく、別の人のゆえにでした——サムエル下 9:7。
    - 2. この事は、神の御前での罪人にも言えます——ローマ 2:4。
  - B. メピボセテが生活していた場所である「ロ・デバル」は、「草のない、牧草のない場所」を意味するヘブル語です。今日のこの世は「ロ・デバル」です——サムエル下 9:4：
    - 1. メピボセテは、ダビデから逃れて、草のない、すなわち、どのような命の供給もない場所で生活していました——サムエル下 9:4。
    - 2. 神から遠く離れた罪人も、草のない場所で生活しています。
  - C. メピボセテはダビデを追い求めませんでした、ダビデは人を遣わしてメ

ピボセテを連れて来させました——サムエル下 9:4-5。

D. ダビデが「メピボセテよ」と言ったとき、ダビデの心にはあわれみ深い感覚があり、彼の声には喜ばしい口調がありました——サムエル下 9:6-7：

1. この言葉の根底には、神の心を表現した心がありました——サムエル上 16:7。
2. ダビデの心は、慈しみとあわれみ深さで満ちていました——サムエル上 20:14-15。

III. 靈的に言って、わたしたちはみな、両足が不自由であった、サウル王の孫メピボセテのようです(サムエル下 4:4)：

A. メピボセテはしばしば王と食事をしましたが、彼の両足は不自由なままでした——サムエル下 9:7。

B. メピボセテはダビデから恵みを受けた後、ダビデの食卓の上にある豊富だけを見ました。メピボセテは食卓の下にある自分の不自由な両足を見ませんでした。

C. わたしたちはメピボセテのように、なおも両足が不自由であるのですが、王の食卓で食事をすることができます——サムエル下 9:13：

1. わたしたちの両足は不自由ですが、その両足は「食卓の下に」あります。
2. わたしたちは救われた後、自分の「不自由な両足」について忘れて、わたしたちの王であるイエス・キリストの食卓に着いて彼を享受すべきです——サムエル下 9:7. ローマ 14:17. ネヘミヤ 8:10：
  - a. わたしたちは自分自身を見るときはいつでも、自分の足が不自由であることを見だし、失望してしまいます——参照、雅 2:8—3:5。
  - b. わたしたちは主の食卓の豊富だけを見て、それらを享受すべきです——エペソ 3:8。

3. 神がわたしたちのために設けてくださったものは、すばらしく、豊富で、甘いのです。わたしたちはただ食べる必要があります——ヨハネ 6:50-51, 53-57. マタイ 8:11. 22:2. 啓 19:9。

D. わたしたちは自己内省から離れ去って、主をひたすら見つめる必要があります——ヘブル 12:2. 2:9。

E. わたしたちは、神がわたしたちの前に設けてくださった豊富と恵みだけを見るとき、平安に満ちて、わたしたちの心は満足するようになります——マタイ 5:6. 14:20。

IV. メピボセテに対するダビデの慈しみは、神の慈しみを表徴しています——サムエル下 9:3. ローマ 2:4. エペソ 2:7. テトス 3:4-5：

- A. 慈しみ(慈愛)は、神のあわれみと愛から出てくる情け深い優しさです——エペソ 2:4, 7。
- B. わたしたちの救い主・神の慈しみと愛によって、わたしたちは救われ、他の人たちと異なる者となりました——テトス 3:4:
1. 神の恵みは人に救いをもたらします。わたしたちは主の恵みによって救われました——テトス 2:11, 3:7。
  2. テトス第3章5節は、神がわたしたちを救ってくださったのは、彼のあわれみによると言っています:
    - a. 神のあわれみは、神の恵みよりも遠くまで届きます——ローマ 9:15-16, 18, 23, ヘブル 4:16。
    - b. わたしたちのあわれな状態は、わたしたちと神の恵みとの間に広い溝を生じました。
    - c. この溝に橋を架け、わたしたちを神の恵みの救いにもたらしたのは、神のあわれみでした——ローマ 2:4, 9:23。
  3. パウロはテトス第3章4節と5節で、恵みについてではなく、慈しみ、愛、あわれみについて語っています:
    - a. 愛は恵みの源です。わたしたちはヨハネの第一の手紙において、恵みの源としての父なる神の愛に触れます——Iヨハネ 3:1, 4:9-10。
    - b. 父なる神の心には愛があります。この愛が御子を通して表現されるとき、恵みとなります——ヨハネ 1:14, 16-17。
    - c. 慈しみは、神がわたしたちに恵みを与えるときの態度です——エペソ 2:7。
    - d. わたしたちは、あわれみ、愛、慈しみを持っているとき、自動的に恵みを持っています——テトス 3:4-5, 7。
    - e. わたしたちの神また父は、愛、あわれみ、慈しみをわたしたちに示しています。彼はこの事によって、わたしたちを救っています——テトス 3:4-5。
- C. 来たるべき時代、すなわち、千年期の時代と未来の永遠において、神は「キリスト・イエスの中で、わたしたちに対する慈愛(慈しみ)の中の彼の恵みの卓越した豊富を」展覽します——エペソ 2:7:
1. 神の恵みは、神の慈しみ(慈愛)の中でわたしたちに与えられます——エペソ 2:8。
  2. 神の慈愛の中の恵みの豊富は、あらゆる制限を超越しています——エペソ 2:7:

- a. それは、わたしたちの享受のための神ご自身の豊富です——エペソ 3:8。
  - b. 慈愛の中の神の恵みの豊富は、永遠にわたって、公に展覧されます——エペソ 2:7。
- D. その霊の實のうちの一つの項目は、慈しみ(親切)です——ガラテヤ 5:22:
1. わたしたちは新しい人を着たので(コロサイ 3:10)、神に選ばれた者、聖なる愛されている者として、思いやりの心と慈しみ(慈愛)を着る必要があります(12節)。
  2. 使徒パウロは慈しみ(親切さ)の中にある神の奉仕者でした。そして彼はわたしたちに、神の慈しみ(慈愛)の中にとどまり続けるように命じました——IIコリント 6:4, 6. ローマ 11:22。
  3. 愛は慈しみ(親切)です(Iコリント 13:4)。わたしたちは互いに慈しみを示し(親切で)、情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、赦し合う必要があります(エペソ 4:32)。